

5月

みんなくウィークエンド・サロン

## 研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。

どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

6日

(日曜日)

話者：近藤雅樹（国立民族学博物館 教授）

話題：考現学を楽しむ

会場：特別展示館

13日

(日曜日)

話者：朝倉敏夫（国立民族学博物館 教授）

岩城晴貞（文化施設・文化事業プランナー）

話題：「済州島の民家」の調査と模型

会場：本館展示場（東南アジア休憩所）

20日

(日曜日)

話者：佐藤浩司（国立民族学博物館 准教授）

話題：物と家族——ある特別展の舞台裏

会場：本館展示場（ナビひろば）

27日

(日曜日)

話者：久保正敏（国立民族学博物館 教授）

横川公子（武庫川女子大学教授、元共同研究代表者）

話題：大村しげコレクションを読む

会場：特別展示館

## 1年間みんなくに何度でも入館できる「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいあります。

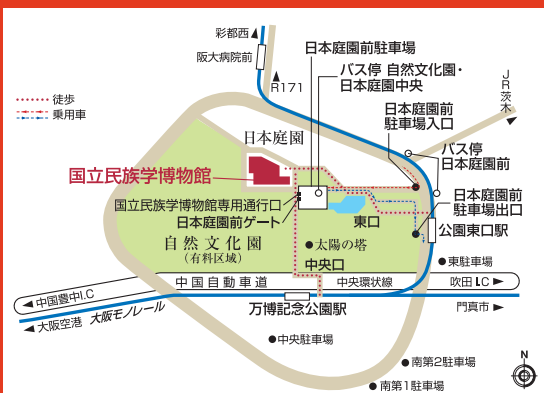
特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。

(電話06-6877-8893/平日9:00～17:00)



## 交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてできます。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>


## 編集後記

30年あまり前、民博への新任者は、当時の梅棹忠夫館長から『月刊みんなく』での対談をまとめた二冊の新書『博物館の世界』『民博誕生』（ともに中公新書）を手渡され、これで民博を勉強するようにといわれるのが常だった。博情報という語はわたしもそこではじめて触れ、以来いく度となく耳にし、情報集積機関としての民博の役割をたたきこまれてきた。確かに当初から民博は情報管理施設をもち優れたスタッフも設備もそろっていた。しかし今でこそいえるが、当時から情報集積機関としてフル活動していたわけではない。高価な装置が使いきれずにいたり、入力作成された情報も十分利用されず、計画だおれや試行錯誤の試みもなごかあった。先駆的すぎたためかもしれないが、梅棹がいう「設備がニーズをうむ」という路線は、高度成長期も手伝い継続してきた。その結果、今や民博はデータベースの量も出力も飛躍的に増加し、まさに民族学の情報基地化しつつある。今回公開された探究ひろばはそれをうかがいしるには格好の窓といえる。ぜひのぞいていただきたい。（庄司博史）

先月号（2012年4月号）8ページ「考現学からの旅立ち——根にある暮らしを伝えた大村しげ」の右下写真にて、写真撮影者の記載漏れがありました。写真家土村清治氏による撮影です。謹んでお詫び申し上げます。

●表紙：イメージ・ファインダーのトップ画面。展示場にある資料が並ぶ

## 次号の予告

特集

## あたらしくなったヨーロッパ展示(仮)

月刊みんなく 2012年5月号

第36巻第5号通巻第416号 2012年5月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 八杉桂穂

編集委員 庄司博史（編集長） 榎永真佐夫 久保正敏

菅瀬晶子 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一敏

制作・協力 財団法人 千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。